

表紙

(まとめ方の見本)

作品のタイトル

学校名

学年

名前

もくじ

はじめに	1 ページ
よそう	2 ページ
調べ方	2 ページ
分かったこと①	3 ページ
分かったこと②	4 ページ
感想・おわりに	5 ページ

参考文献リスト

はじめに

わたしの家の前に黄色い花がたくさんさいています。小さくてかわいい花です。おうちの人に聞いてみると家族がうえたわけではないけれど春になると毎年花をさかせるそうです。

どんな名前の花なのか、どんな種類の花なのか、気になったのでくわしく調べてみることにしました。

よそう

小さいころ、この黄色い花ににているものでよく遊んでいたので〇〇だと思う。

小さくて黄色い花の名前は、〇〇のほかによく知らない。

調べ方

- ・ としょかんの本で調べる
- ・ △△新聞に〇〇の記事がないか調べる
- ・ 博物館で〇〇について聞いてみる
- ・ □□□のホームページを見る

調べて分かったこと①



場所：自宅

さつえい者：自分

さつえい日：令和○年○月○日

・花の名前について

○○○科

△△△属□□□

「書名△△△」P.10 より

・名前のゆらい

19○○年に外国から持ち出され、○○語から名づけられたのがゆらい

「書名□□□」P.20 より

・花の名所

○○県○○市の

○○公園

5月下旬に花の見ごろをむかえ、この時期に多くの観光客がおとずれる

令和○年○月○日付

「□□新聞」P.10 より

調べて分かったこと②

博物館の人に聞いてみると、日本全国に〇〇があることということがわかりました。

また〇〇は□□□のホームページで調べると日本の北側、〇〇は日本の南側にあるということもわかりました。

※たとえば、日本地図などを書いてみてもよい

図「□□□のホームページ」より

訪問インタビュー

△△博物館 □□さん

(令和〇年〇月〇日訪問)

感想・おわりに

今回、調べ学習をやってみて、はじめは〇〇だと思っていたことが自分の予想とちがって、●●だということがわかりました。自分の友だちや家族、近所の人に、〇〇についてアンケートをとったらほとんどの人がまちがっておぼえていました。みんな知っているようでじっさいは、かんちがいしている人が多いと思いました。

また、□□□についても知りたいので、次の調べ学習でくわしく調べてみたいと思います。

調べ学習に協力してくれた皆さんありがとうございました。

〈アンケート調査〉

いつ：令和4年〇月〇日（日）

だれに：家族（祖母・父・母・姉）、近所の〇〇さん、学校の友だち（4人）計10人

どのように：〇〇の写真を見てもらい口頭で質問

質問①この写真の花の名前を知っていますか？

知っている 7人

よくわからない 3人

質問②この花の名前を教えてください（知っている方のみ回答）

〇〇 7人

質問③なぜ〇〇だと思いましたか？

見た目でそう思った 5人

黄色い花は〇〇しか知らない 1人

本で見たことがあるから 1人

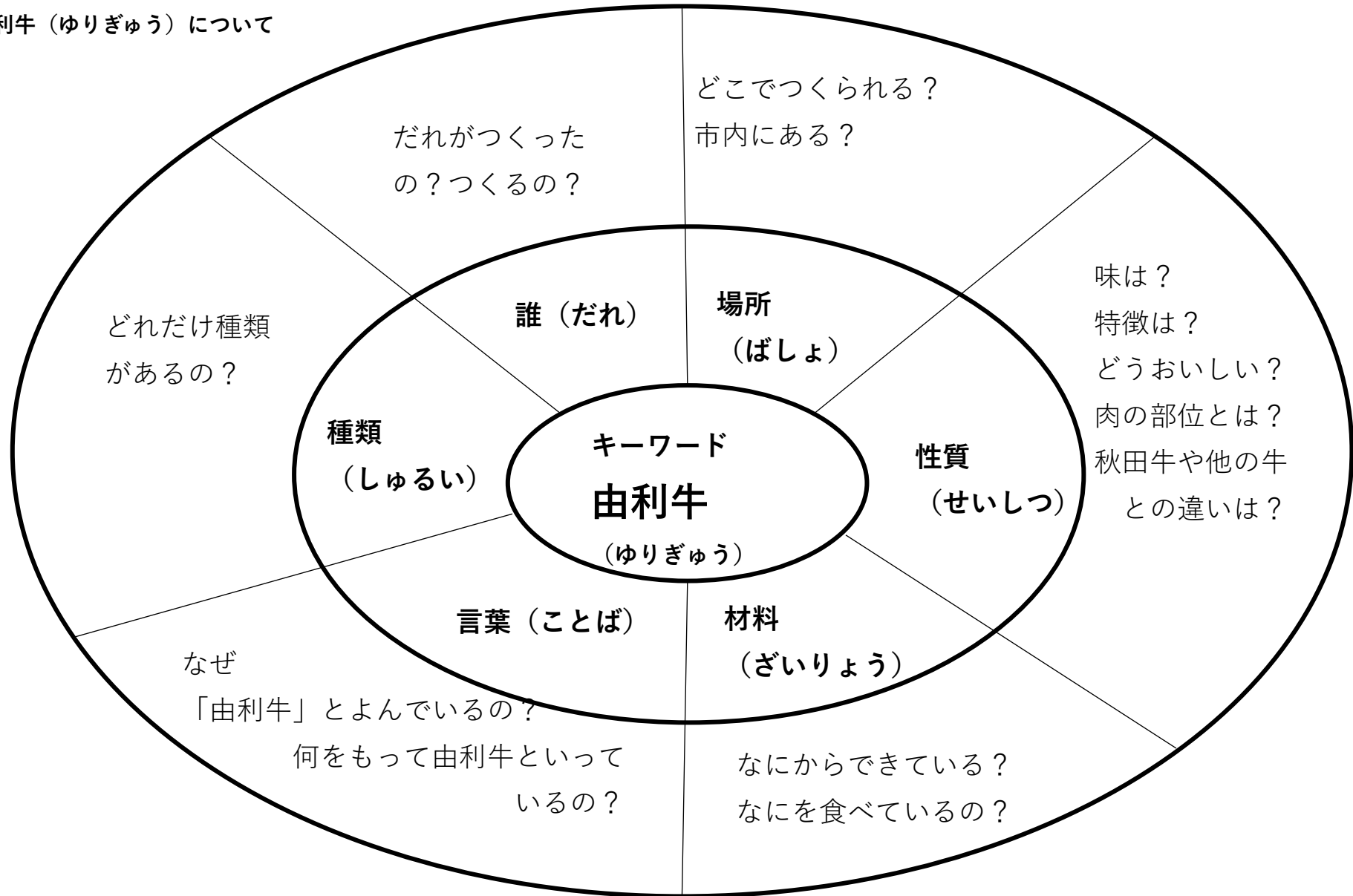
参考文献リスト

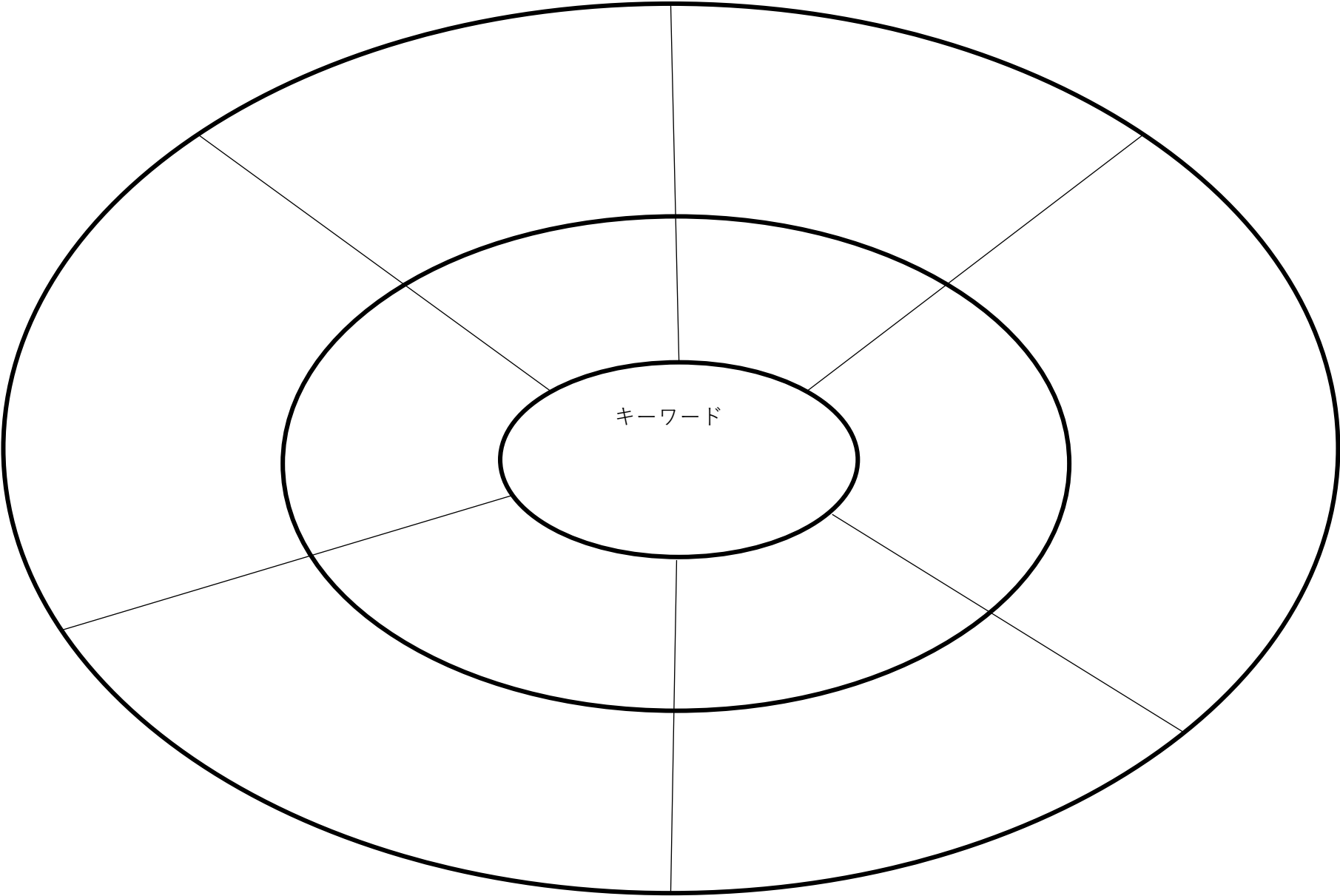
ほん いちばんうし か
本の一**番**後ろのページに書いてあるよ！

[illegible]

例

由利牛（ゆりぎゅう）について





調べてみよう

	学校 年 なまえ	■わかったこと
■はじめに しら (調べたきっかけ)		
しら ■調べること		
よそう りゆう ■予想と理由		
しら かた ■調べ方	としょかんの本でしらべる	かん そう ■感想

解決マニュアル

1 テーマが決まらない

⇒自分に（子どもに）ぴったりのテーマを選びましょう

- 好きなことは？好きなものは？
- 不思議だなあと思っていることは？
- 気になっていることは？→授業で学んだことをもっと知りたいなど
- 嫌いなものは？
- 困っていることは？

ポイント：誰かにすすめられたテーマ（自主的でない）では飽きてしまう。自主的に決めた形にする
いつも問題意識を持つ
テーマをぐっと狭くすると面白い（サメ→ジンベイザメの方がいい）

（具体的な方法）

- ドーナッツチャート（別紙）で具体化してもよい
- インタビューゲーム

→インタビューによって調べたいことがよりはっきりする。聞かれることに答えることではっきりしてくる。友だちや親などが、好きなこと（1の例）などを聞き、その何が好きなのかなどと細かく質問すると、具体化してくる

例）動物が好き→好きな動物は？→「ねこ」→どうして好き？→「ねこを飼っているから」→気になっていることは？困っていることは？→「匂い」⇒ねこの匂いを仮テーマにするなど

2 情報をあつめられない

⇒一つだけでなく、いろいろな種類の情報に目を向けましょう

- 本で調べる（図書館）なるべくたくさん本を使って調べるのがコツ！
- 本以外の資料（新聞、雑誌、パンフレットなど）で調べる
- インターネットで調べる
- インタビューする
- アンケートをとる
- その場所にいくしてみる

ポイント：必要なことを記録すること

例）本⇒書名、著者名、出版社（奥付けを写真で撮るなど）

Web⇒アドレスと日付（情報が更新されるため）

インタビューや写真などの資料を掲載する場合は、関係者に必ず許可を取ること

目次・ページ・引用参考文献など漏れがないかチェックしてみてね！

3 まとめ方がわからない ⇒「本」や「入賞作品」や「友達の作品」を参考にしてまとめましょう。

⇒ポイント：楽しみながら書く。読んで面白い作品は、書き手も楽しんでいる。

① きっかけと予想を書く

なぜそのテーマを選んだのか、きっかけを書く

また調べる前に答えがどうなるか考えたこと（予想）も書いてみましょう

② 調べたこと、わかったこと、考えたことを記録しておく

・カードや付箋など（A4のルーズリーフだとまとめやすい）

⇒例）イラストは最初から清書する用紙にかくより、別の紙に書いて切って貼るといい

例）基本的なことが分かっているなら、さらに深く調べるといい

例）過去の自分の作品をさらに深く調べてまとめるのもよい（過去の自分の作品を参考作品として参考文献一覧にかくことを忘れずに！）

例）調べた事、分かった事で「絶対にすごい！」「友達に教えたい！」と思うことを記録する

例）本を写すのではなく、自分の言葉で書く

例）自分の体験や本に書いてある事を比べて書く

例）調べた本から大事な言葉、キーワードを見つける

例）読み方が難しかったらフリガナをふっておく（あとからでも分かるように）

例）難しい言葉を易しい言葉にするか、辞書で調べて欄外に意味を記入する

例）今回調べて分かったことは、「今回調べたこと」と記録しておく

例）一冊の情報だけではなく、他の本ではどうなのか？調べていくうちにもっと知りたいことが増えていく

例）偉人について調べるときは、年表を調べる

・本のタイトル、著者名、出版社、掲載ページ、所蔵図書館名なども記録する

・伝える相手をイメージしながらまとめる（友だちに分かるような文章で書く）

⇒例）お母さんや友だちに伝えるようなイメージ

例）吹出しやイラストを入れて、「つぶやき」や会話しているようなイメージ

③ まとめ・感想

・まとめでは自分の予想と比べてどうだったかなど自分の知りたかったことの答えを書こう

・感想では調べてみて自分が考えたこと、思ったことを書きましょう

大変だったことやうれしかったことなどでもよい

・読み手がいることを意識したまとめ方をする

④ 必要なページは忘れずにつくりましょう（もくじ、参考文献一覧）

■調べたことを整理する方法（情報カードの活用）

1. 情報カード（調べたことを1つ書く）→5cm四方のメモ（ふせん）に書くイメージ
2. カードの内容ごとにグループでまとめる
3. 各グループに見出しを付ける
4. グールピングにより、順番化しやすく足りない情報も見える化できる

- 4 良い作品かわからない ⇒読んだとき、面白くもっと読みたいと感じる作品を作しましょう
- テーマに対しての思いが伝わってくる「はじめに」にする
 - 自分が感じた気持ちを表現する（楽しい・悲しい・感動した・ドキドキした）⇒論文と違う

■調べ学習の過去作品を例に

- 調べコン特設サイトのデジタルブックを参考にするとよい
- 困っていることをテーマにした作品⇒自営のお菓子屋さんの看板メニューを工夫する
- 身近なものから問題意識をもった作品へ
- 一つのテーマを追いつけている作品⇒毎年進化、例）桃太郎をテーマに鬼や宝など

■調べ学習を楽しむ

- 一緒に調べて楽しさを共有しましょう（家族で楽しむ）
- 家族でテーマを共有する（テーマに関連した場所に行ってみるのも面白い）
- 子どもの小さな疑問を大切にする
→大人にとってつまらない疑問でも調べたことを大切にしていける
- 調べたいことを一緒に面白がる

- その他 親子の部⇒分担をはっきりしていること（親が登場するところも作る）
子どもが調べたことに大人が調べたことを追加するイメージ

■提出する前の基本チェック項目 提出前に確認しましょう！

- ☐ もくじ、参考文献、ページ振り（表紙、もくじ、参考文献にはページ数を書かない）
- ☐ 写真の出典（撮影日、撮影場所、撮影者を記載。自分の家族でも記載する）
- ☐ 引用 引用した部分は「 」とつけ、出典を記入する
- ☐ 自分の過去の作品を引用する場合は、それも参考文献とみなす
- ☐ はじめに 調べるきっかけ、理由・動機などが書かれているか（予想も書くとよい）
- ☐ おわりに 感想やお世話になった方への感謝が書かれているか（予想結果も書くとよい）
- ☐ 親子の部 分担がはっきりしていること。親が登場する所もあるか

ポイント：「はじめに」と「おわりに」が続けて読んでいるのが理想。

■さらによいものにしたいひとに

☐なるべく複数の文献^{ふくすう ぶんけん}を利用^{りよう}しているか

☐情報^{じょうほう}の取舍^{しゆしやせんたく}選択^{せんたく} ⇒ 面白^{おもしろ}くてもテーマに^{かんけい}関係^{かんけい}ないものは入れ^いない

☐各所^{かくしょ}に考^{かんが}え、意^い見^{けん}、伝^{つた}えたいこと^{えたい}が書^かかれて^{かれて}いるか

☐タイトルが魅^み力^{りよくてき}的^{てき}で引^ひきつけられるもの

☐いくつか資^{しりよう}料^{りよう}や情^{じょうほう}報^{ほう}を比^{くら}べていますか

☐自^じ分^{ぶん}が変^かわったこと、影^{えい}響^{きやう}を受^うけたことを、調^{しら}べる前^{まえ}と後^{あと}での自^じ分^{ぶん}の^{へんか}変^{へん}化^かを伝^{つた}えている

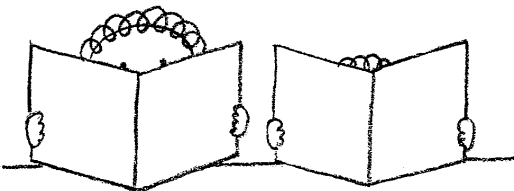
夏休みには
図書館で
調べる学習!

その3

人の意見 と 自分の考え

取材・構成 〃
山田万知代(編集部)

参考文献は
なぜ
書かないと
いけないの?





「図書館を使った調べる学習コンクール」では、
「図書館を使ってください」ということと同時に、
「調べたときに利用した資料名を
必ず書いてください」と

応募される皆さんにお願いしています。
たくさん本を少しずつ使った上に、
本の題名その他いろいろ
書かなくてはいけないというのは、
ちよつとたいへんです。

しかし、これには、大切な意味があります。

『レポート・論文作成のための引用・

参考文献の書き方』の著者・藤田節子さん

（図書館の学校理事・コンクール審査委員）に、

引用・参考文献の意味と、書き方について

小・中学生向きにお話をお聞きしました。

私は、このコンクールの審査をして3年目、これまで小学生、中学生の作品を審査し、最終審査会ではかの委員皆さんの話も聞いてきました。どの部門でも共通して議論になることのひとつに、引用のしかたや参考文献の書き方の問題があります。

「これ、すごく良いテーマだね」「よく調べている」と興味深く読み進んだ作品でも、参考文献が付けられていなかったり、引用のしかたが正しくないことがあると、審査の途中で落とさなくてはなりません。

もちろん、発達段階に応じて、小学校低学年ならこのくらいでも仕方ないかな、中学生になったらここまでは書いて欲しい、といったことはあります。しかし、基本的なことは、どの年齢でも同じです。

「参考文献リスト」「引用」というと、大学生が論文を書くときの用語のようで、難しく感じてしまうかもしれません。しかし、その根本にあるものは、基本的な人としてのマナーとルールの問題です。社会のルールには、必ず意味があります。それは、小さいうちから徐々に慣れて、おぼえていかななくてはなりません。

藤田節子（ふじたせつこ）

NPO図書館の学校理事。専門図書館、データベース企業等を経て現在川村学園女子大学教育学部教授。著書に『データベース設計入門』『新訂図書館活用術』『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』（日外アソシエーツ）、『自分でできる情報探索』『キーワード検索がわかる』（ちくま新書）他多数。

用語解説

【引用】

自分の説のよりどころとして他の文章や事例または古人の語を引くこと

【参考】

てらしあわせて考えること。自分の考えややり方を決める手がかりとすること。また、その材料。

新村出編『広辞苑』第6版、岩波書店、2008より

なぜ、使った本の
題名などを書かないと
いけないのでしょうか。

「調べる学習」とは、あるテーマについて、自分がどのように調べ、どのように考えたか、その自分の意見をまとめて人に伝えるものです。

「自分の意見をまとめる」ということにあたっては、自分の頭のなかだけでは考えられません。どんなにすぐれた学者の理論でも、その人の前には、誰か——、先に考えたり調べたり、実験したりした人たちが必ずいるはずで。そういう、先に研究した人の意見にプラスして、自分はどう考えたか、を書くのが「調べる学習」です。

先に研究した人の意見の上に自分の意見を言う、ということですから、その先人たちに対して、敬意を表すというのは人としてのマナーだと思います。

参考文献一覧を書くのは、
参考にさせていただき、
ありがとう、と感謝の気持ちを
表すものなんですね！

もうひとつ、参考文献リストは、その作品が正しいことを書いているかを読み手が判断する、目安になるんです。

読みながら、「この部分は、ほんとに正しいことを書いているの？」と思うことがあります。その場合、「この本に、こう書いてあります」と、作者が参考にしたもの、つまり参考文献の情報を見ます。

『A』という本と一緒に、『B』の本も参考にして書いているんだな」

『C』の本の作者がこう主張しているのね」

『A』と『B』と『C』の3冊の本と、自分の行った実験結果に基づいて、作者はこう考えたんだね」と、読み手がそれを確認することができます。

ある考えにかたよった資料だけを参考にしているとしたら、この人の考えもかたよっているかもしれないな、と読む人は考えます。

書き手の意見の根拠になるものは
この本と、この本と、この新聞記事…、
と、読む人が確認できる。
それが参考文献リストなんですね！



大久保 徳之新くん
(文京区立明化小学校6年)
『乗り物酔い克服大作戦!』の
参考文献リスト(一部)

参考文献 (図書の1部分を参考にした場合・事典や辞書の一項目を含む)				作品名	著者	ページ	図書館名と蔵書記号
著者名	項目名	書名	出版社	出版年	頁数		
橋のつとむ 榎野 航	旅に必要なもの	旅の必需品	どう出版	2006年	P 208 P 307		大久保 徳之新蔵書 R 613.7 (457)
松村 勇編	酔う	大辞林	三省堂	1988年	P2479		大久保 徳之新蔵書 R 613
吉田隆子	乗り物酔い	いっていいのよ! 酔い アロマアロマ=50	明文書院	1978年	P 41		大久保 徳之新蔵書 477
	加速度	世界大百科事典 5	平凡社	1988年	P 351		大久保 徳之新蔵書 R 613
	船酔い	世界大百科事典 24	平凡社	1988年	P 724 P 727		大久保 徳之新蔵書 R 613
	平衡感覚	世界大百科事典 25	平凡社	1988年	P 724 P 727		大久保 徳之新蔵書 R 613
	耳	世界大百科事典 27	平凡社	1988年	P 724 P 727		大久保 徳之新蔵書 R 613
	加速度病	日本百科全書 5	小学館	1985年	P 324		大久保 徳之新蔵書 R 613
	平衡感覚	日本百科全書 20	小学館	1985年	P 865		大久保 徳之新蔵書 R 613
	耳	日本百科全書 22	小学館	1985年	P 435		大久保 徳之新蔵書 R 613

いつの情報を根拠に
しているか。それによって、
その作品の言っていることが
正しいか判断できる
こともある!

著者名や書名、出版年といった出典を正確に
書くことも、とても大切です。
出版年とは、その情報がつくられたのはいつ
か、を表す数字です。古い本で調べる価値がある
テーマもありますが、できるだけ新しい情報で
調べないという意味がないテーマもあります。たとえ
ば、法律などは、改正されて変わっていることが
あります。古い法律をもとにして書いては、その
意見は間違っています。
また新聞記事や雑誌記事は、いつの記事かが
わからないと、後で探すことができません。
さらに、インターネットの情報は、いつ発信さ
れたか、がとても重要です。同じホームページが、
後で書き換えられて、まったく違う内容になっ
てしまうこともあるからです。

あとあと、
研究をする人にとって、
資料を探す道しるべになる。
これも参考文献リストの
大事な役目!

あるいは、この作品をもとにして、別の人が、
このテーマを調べてみようと思うこともあるか
もしれません。例えば、第13回で受賞した作品
『乗り物酔い克服大作戦!』を読んで、「乗り物酔
い」を違った角度から研究しよう、という人が後
から出てきたような場合もあるでしょう。
その人は、『乗り物酔い克服大作戦!』に付け
られた参考文献リストを元に、図書館で資料を
探して、それをまず読もうとするでしょう。図書
館で本を探するとき、本の題名が間違っていたら、
その人は、本にたどりつくことができません。
同じ名前前の本があることもあるので、そのとき
は、著者名や出版社名などで判断をして探して
いくことになります。(世の中には、同じ名前前の
本がたくさんあることがありますからね!)

本の場合

本の、最後のあたり（裏表紙の前、最後のページの後）に、本をつくった人や団体のことを書いたページがあります。

これを「奥付^{おくづけ}」といいます。

そのほか、表紙や、本文の前にあるページ（標題紙といいます）も、参考にします。



最後のページを開くと……

「奥付」のページがあります。

わたしの研究① どんぐりの穴のひみつ ろショクワイツ

発 行 2006年9月1刷

著 者 高柳芳恵

発行者 今村正樹

発行所 株式会社 偕成社
 東京都新宿区市谷砂土原町3-5(〒162-8450)
 〒162-8450 東京3260-3221(販売), 03-3260-3229(編集)
<http://www.kaiseisha.co.jp/>

① 著者名(書いた人の名前)

② 書名(本の名前)

③ 出版社名

④ 出版年

図書館に本を返す前に、
必要な本の「奥付」をコピーして
おくといいいですね。

著者名	書名	出版社名	出版年	図書館名と請求記号
高柳芳恵	どんぐりの穴のひみつ	偕成社	2006	文京区立O△ 図書館 3ショクワイツ

このコンクールでは、使った
図書館名と、請求記号も、
できるだけ書いてください、
としています。

なにを
どのように書けば
いいのですか？

新聞の場合

- ① 記事を書いた人の名前
- ② 新聞記事名
- ③ 新聞紙名
- ④ 記事の出た年月日
- ⑤ 朝刊か夕刊か
- ⑥ ページ



この辺りに
出ています

記事を書いた人の名前	新聞記事名	新聞紙名	出版年月日	朝夕刊	ページ
	はやぶさのカプセル回収	朝日新聞	2010年 6月15日	朝刊	38ページ

記事の最後に
書いていない
場合は空欄

Webの場合

webページを制作した人・団体名	webページ名	webサイト名	更新年月日	URL	アクセス年月日
NPO 図書館の学校	機関誌 『あうる』	NPO 図書館の学校	2010. 6.1	http://www.toshokan.or.jp/owl.html	2010. 6.10.

もっと詳しく知りたい人、
高校生以上の方は、
ぜひこちらを参照してください。

これらの参考文献リストは、図書館の学校ホームページ
<http://www.toshokan.or.jp/shirabe-sp/s-sanko.html>
からダウンロードしてお使いいただけます。



左：
藤田 節子 著
『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』
日外アソシエーツ,2009

右：
科学技術振興機構「科学技術情報流通技術基準 (SIST)」
の小冊子『参考文献の役割と書き方』(<http://sist-jst.jp/>
からダウンロードができます)も参照してください。

もっと大切なこと

ところで、参考文献一覧を書くことよりも、もっと大切なことがあります。それは、引用のしかたです。

「自分の考え」をしっかりと表すためには、「人の考え」を引用したことを明らかにして、自分の考えと他人の考えをしっかりと区別することが必要になります。

読み手が「この意見は突然書かれていけるけれど、何をもとにして考えたのかな?」「この文章は自分の文章なのかな?」とか「書いた本人が実験した様子は無いのに実験のことが書いてあるよ、これはどういうことだろう?」と疑問を持つ作品は、この「自分の考え」と「他人の考え」(自分が調べたことと、人が調べたこと)が、一緒にたになっていくものです。

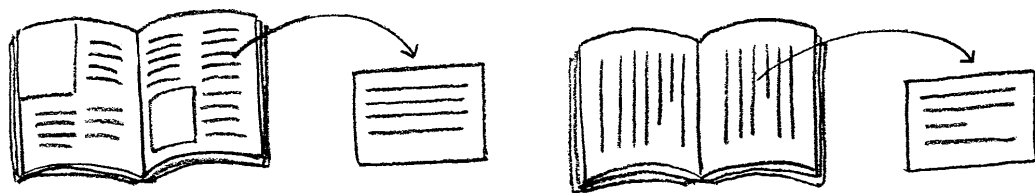
これも難しいことなのですが、まわりの大人が自覚をもって説明し、くりかえし訓練することで、小学生のうちから徐々に理解できるようになっていきます。

まず、「自分が書いた文章」と「他人が書いた文章」を「」などで区別しましょう。

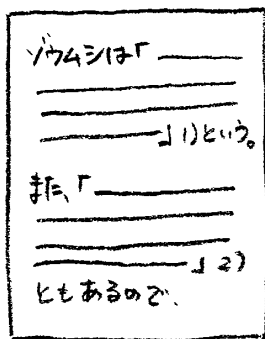
そのうえで、「この意見(データ)は、【○○】の

引用のしかた

ノートやカードに写す・コピーをとる



作品



No.	著者名	書名	出版社名	出版年	ページ	使った図書館名と せいぎゅう記号
1		ベスト図解百科 9	学研ネクスト	2000	p.8	豊島区立O.A図書館 K03
2	高柳芳恵	どんぐりの穴のひみつ	偕成社	2006	p.34	文京区立O.A図書館 3シ977ツ

あるいは、

ゾウムシは「——」(ベスト図解百科、学研ネクスト、2000、p.8)という。また、「——」(高柳芳恵、どんぐりの穴のひみつ、偕成社、2006、p.34)ともあるので

のように、引用した文章や図表の近くにも書いてもかまいません。

○ページに書いてありました」ということがわかるように書くことです。

作品の最後に参考文献リストをつける場合は、引用した文章の「」の最後に番号を付けておいて、引用文献の一覧と同じ番号のもとにその文献の著者名などの出典を書きます。そうすれば、引用した文章の出典がひと目でわかります。



私たちは社会のなかで生きていくうえで、さまざまな疑問が湧いたり、ときには困った問題が起こります。それに対してどうしたらいいか調べ、人の意見を聞いた上で、最終的には自分で考えて問題を乗り越えていかなければなりません。

人の意見もみんな同じときばかりでなく、違う意見もあるでしょう。その中で、自分の意見をしっかりと持って人に伝え、理解してもらうようにするためには、人が納得するような根拠を示さなくてはなりません。人は、基本的には論理的、科学的な意見に納得するわけですから。

調べる学習は、このような、人が社会のなかで生きていくための基本を学ぶものだ、と私は思っています。

ですから、読む人が納得できる調べ方、伝え方を、「調べる学習」を通して、小学生から大人の方まで、皆さんに知っていただきたいと思います。

コピーして使える参考文献リスト

必要に応じ拡大コピーしてお使いください。

または図書館の学校ホームページからダウンロードしてお使いください。

<http://www.toshokan.or.jp/shirabe-sp/s-sanko.html>

キリトリ

参考・引用文献リスト

(図書の一部分を参考にした場合)

作品名

あなたの名前

No.	著者名	書名	出版社名	出版年	ページ	使った図書館名と せいぎゅう記号